



令和7年12月17日付けでお願いさせていただきました計画内容(課題及び成果指標)に対し、事前にご回答いただきまして、どうもありがとうございました。未回答の方もいますが、回答可能な**全ての委員の皆様からご回答いただきました結果**です。

Q1 前回の審議会において、課題③「生涯を通じた健康支援」は、目標2「自分自身を大切にし、希望するライフスタイルを選択できるよう支援」から、目標3「誰もが安全・安心して暮らせる環境を整備」に移行しました。
そこで、目標3「誰もが安全・安心して暮らせる環境を整備」における課題として、施策の方向が「ライフステージに応じた健康づくりの推進」「性と生殖に関する啓発・支援」である場合、どのようなフレーズが良いと考えますか？
次の選択肢の中から、一番良いと思うものをご選択をお願いします。

一番多かった案を赤字で囲っています。

- (案1): 「生涯を通じた健康支援」 のまま変更しない。(第6次の課題)
- (案2): 「人生に寄り添う健康支援」
- (案3): 「全世代が安心できる健康づくりの実現」
- (案4): 「性別に応じた健康教育と予防策の推進」
- (案5): 「男女別の健康課題に応じた支援の強化」
- (案6): ほかのキーフレーズが良い。

選択した回答数		理由
案1	○ ○ ○ ○ ○ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「ライフステージに応じた」が一番よく表現している。そうすると(案2)でもよいかと思っただ、ある程度浸透しているのであえて変えない方がよいと思った。 ・「産後ケア(ゆりかご葛飾)」「特定健康診査」「親と子のこころの相談室」を包括している表現が(案1)だと思う。 ・「ライフステージ」「性と生殖」「安心・安全」を明確化できる表現だと考える。 ・その他の案について <ul style="list-style-type: none"> (案2) 理念的で柔らかいが、行政用語としてはやや抽象度が高い。 (案3) 目標3との親和性は高いが、「性と生殖」の視点が後景化する。 (案4) ジェンダー視点は明確だが、課題名としては射程が狭く、他事業を包摂しきれない。 (案5) 男女に二分できない人を排除する ・案3もいいが、目標3に包括的な意味で「安心」を使用しているので、(案1)の表記でいいと思います。また「生涯を通じた健康支援」は常に最重要課題ですから。 ・産後ケアなど新しい施策も案1と矛盾しない。
案2		
案3	○ ○ ○ ○ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は支援ではなく、健康づくりの実現。 ・「ライフステージに応じた」なので、全世代があっていると思った。 ・ライフステージ毎に課題があるので世代別アプローチが実現できるとよいと考えたため。 ・目標3に移したので、「安心」もしくは「安全」のフレーズが入る方がよいと思った。
案4	○ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた健康支援も良いと思いますが、男女共同参画なので、「性別に応じた～」という案の方が良いのではと思う。
案5		
案6	○ ○ ○ ○ ○ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた(人生に寄り添う)健康の支援と教育。 理由: 「健康づくり」と「性と生殖」は異なることと考えます。そこで、両者を含む言葉が思いつきませんでしたので、分けて表記するとよいのではと考えた。また、「生涯を通じた」「人生に寄り添う」の違いがわからなかったものでどちらでもよいと思いますが、厚労省の表記に合わせて「生涯を通じた」がよいと思います。 ・「一人一人の生涯を通じた健康課題への対応」 理由: 施策の方向性としては、それぞれの性、特に「ライフステージの変化」による健康リスクを受けやすい女性の健康支援がメインであるため、性別に関する表記を入れたいが、(案5)の「男女別」とすると性的マイノリティを考慮していないとも取られかねず、また、女性と言っても人生の選択は人それぞれであるため、より「個」を意識した表記とするのがよいのではないかと考えた。(案4)は、「性別に応じた」は良いが、「健康教育と予防策の推進」が微妙に不完全な表現に思える。 ・(案6) 生涯にわたる心身の健康と性の尊重を基盤に、安心して暮らせる環境を整備。施策の方向性を汲み総括。 ・(案6) 「性別特有の健康課題に応じた支援の強化」 理由: 性別による健康課題に対する理解・周知とその支援が必要だと思うので(特に女性の生理痛関連や、更年期障害など)。 男女とも、安心して暮らせる環境整備という目標に紐づくことから、この文言を選択した。 ・「生涯を通じた男女別の健康支援の強化」 理由: 性と生殖の問題が絡んでくるので、男女別のというフレーズを、生涯を通じた健康支援に付け加えた方がよいと思ったので。

資料 1

葛飾区男女平等推進計画（第7次）の計画内容（成果指標）に係る事務局案に対する回答



(令和8年1月23日現在)

②

審議会等における女性委員の割合について

Q1：修正が必要な点

- ・40%以上
- ・結果を出しやすい指標と思うので、これでいいと思う。
- ・現時点では、成果指標の数値について修正の必要はないと考える。
- ・この数値で良い。
- ・なし（2件）
- ・修正なし
- ・未記入（6件）
- ・50%（以上は削除）にしてもよいかもしれない。建設などインフラ系の審議会で女性割合をあげるのは難しいかもしれませんが、ほかの分野ではもっと上げられると思うので。

Q2：数値の出し方で事務局への質問

- ・ありません。
- ・特になし
- ・なし（2件）
- ・未記入（9件）
- ・連合は、「執行機関への女性の参画率50%」を掲げている。
(2030年までに50%を目標とする「203050」（ニーマルサマルゴーマル）としている。)
- ・国は「2020年代の可能な限り早期に30%程度」を第6次男女共同参画基本計画でも継続予定。
- ・目標は掲げ続けなければならないだろうが、この先、数値が上昇する見込みはあるのか？

資料 1

葛飾区男女平等推進計画（第7次）の計画内容（成果指標）に係る事務局案に対する回答



(令和8年1月23日現在)

③

ワークライフバランスの希望と現実の差について

Q1: 修正が必要な点

- ・ 12ポイント以下
- ・ このままで良いと思う。
- ・ 現時点では、成果指標の数値について修正の必要はないと考える。
- ・ この数値で良い。
- ・ 修正なし
- ・ なし (2件)
- ・ 未記入 (5件)
- ・ 今更かもしれないが、「優先度の希望と現実」という質問の仕方が難解だったかもしれない。そのため、成果指標の出し方もややこしくなるのではないか。
(何期か前に計画では、「ワーク・ライフ・バランスの認知度」を上げることを指標にしていた記憶があるが、違いましたっけ?)
- ・ とくに修正の必要なし

Q2: 数値の出し方で事務局への質問

- ・ 11/12配布資料のP.124及びP.127のの結果グラフと解説から、女性は仕事も優先したいのに家庭を優先せざるを得ず、逆に男性は家庭も優先したいのに仕事優先になっているような傾向があるように思われますが、この指標はその課題を表す数値となっているのでしょうか。
- ・ ありません。
- ・ 特になし (2)
- ・ なし (2件)
- ・ 未記入 (8件)

資料 1

葛飾区男女平等推進計画（第7次）の計画内容（成果指標）に係る事務局案に対する回答



(令和8年1月23日現在)

④

家事などの分担で男性の「いつもしている」の回答割合について

Q1：修正が必要な点

- ・「いつもしている」と考えている割合。
- ・全項目で増加。
- ・このままで良いと思う。
- ・現時点では、成果指標の数値について修正の必要はないと考える。
- ・修正は必要ないです。（2件）
- ・修正なし
- ・なし
- ・未記入（5件）
- ・ここでいう「いつもしている」は、夫婦共働きで子育てもしている家庭で、家庭生活を妻と共同で行っているかを計るものなので、単純に「男性がいつもしている」数値だけを成果指標にするとミスリードになるのではないかと？
(今回、男性の50%以上が60代～80代以上の高齢層。また、単身世帯で、自分でやるしかない場合の「いつもしている」も含まれているので、結果としてこちらの求める意図と違っていると思われる。)

Q2：数値の出し方で事務局への質問

- ・意識調査なので個人の捉え方と実労働時間の国際比較は別だと考える。
- ・女性から見た数値、意識と実際の時間数は、「いつもしている」の回答が少ないと感じる。
- ・全項目で増加は実態ではないのでは？と感じた。
- ・ありません。
- ・特になし。（2件）
- ・なし
- ・未記入（9件）

資料 1

葛飾区男女平等推進計画（第7次）の計画内容（成果指標）に係る事務局案に対する回答



(令和8年1月23日現在)

⑦ セクハラ被害者が「相談したことがある」の回答割合について

Q1：修正が必要な点

- ・40.0%以上
- ・40.0%でよいと思いますが、R2 34.5%→R7 29.0%に落ち込んだのが気になる。
- ・事務局の懸念事項を踏まえる必要はあるが、現時点では成果指標の数値について修正の必要はないと考える。
- ・修正なし。(2件)
- ・修正はないです。
- ・なし(2件)
- ・未記入(5件)
- ・そもそも被害者が出ない社会にすべきだが、「相談しなかった理由」のトップが「相談するほどのものではない」「相談しても無駄だと思った」がともに40%以上なので、そこを解消する取り組みをすれば良いのかと思う(行政だけでなく、仕事上であれば企業側も。)
- ・ハラスメント対策の整備は義務化されているはずなので)。ひるがえって、「セクハラを経験がない」の数値を成果指標にするのもアリかも。
- ・令和2年度に34.5%でしたので、50%以上にしてもよいかもしれません。

Q2：数値の出し方で事務局への質問

- ・ありません。
- ・特になし。(2件)
- ・なし(2件)
- ・未記入(8件)

資料 1

葛飾区男女平等推進計画（第7次）の計画内容（成果指標）に係る事務局案に対する回答



(令和8年1月23日現在)

<p>⑨ 日常生活の中で、「差別があると感じていない」の回答割合について</p>	Q1：修正が必要な点
	<ul style="list-style-type: none">・70.0%以上 <p>(調査結果の127%の数値。前回の調査では68.8%とほぼ達成であったことからもっと高く設定することもありではありますが、54.7%と大幅に下がったことから何か新しい困難さが生じたのだと考えます。)</p>
	<ul style="list-style-type: none">・70.0%以上・70.90%でよいと思いますが、R2 68.8%→R7 54.7%の大きな落ち込みは気になる。・質問の主語が不明確なため解釈によって質問の意味が異なり、よって回答もことなる質問への回答が混じってしまい正確な数値にならないと思う。・「自分が差別されていると感じない」なのか、「周囲（範囲も不明確）に差別が存在すると感じない」なのか。後者であれば、この数値が高いということは人権教育が不足していることの証左であると思う。・事務局の懸念事項を踏まえる必要はあるが、現時点では成果指標の数値について修正の必要はないと考える。・修正なし。・修正はないです。・なし・未記入（4件）・例えば「日本人ファースト」という思想について、差別と受け取る人もいればそうでない人もいるように、「差別とは何か」という考え方が、人によって尺度が違ってきているように思う（特にこの1年）。・成果指標にするということは・葛飾区が施策事業で区民の意識を変えていく取り組みを全力でやらなければいけないということなので、事務局が懸念と思うのであれば、再検討すべきと思う。・そのままだでもよいと思いますが、この項目だけ、実態について聞いているものではなく、主観的なものになっているので、差別についての実態を明らかにしたい場合は、実態に関わる質問に変えてもよいかもしれません。
	Q2：数値の出し方で事務局への質問
	<ul style="list-style-type: none">・ありません。・特になし。・なし（2件）・未記入（9件）